

好調B I Bの 量産確立へ

県助成の開発も急ピッチ



一斗缶ラインでそのまま使用可能

現在、B I Bの主要ユーザーである塗料業界では、環境問題などを背景に塗料の水性化が進展。ところが従来の金属缶では、水性化による内面の錆びを防止するためにコーティングなどを施す必要があり、包材コストの上昇要因になっている。こうした点が使用後の廃棄も容易な点と相まってB I Bには追い風となり、国内メーカー各社は順調に需要を伸ばしている。

ジャパンパック

ジャパンパック（富山県滑川市、TEL076-476-1750）は、環境問題などを追い風に、主力商品のバッグ・イン・ボックス（B I B）[N-パック]が好調な売れ行き。今秋からは機械化による量産確立も進め、さらなる需要拡大を目指している。

現在、B I Bの主要ユーザーである塗料業界では、環境問題などを背景に塗料の水性化が進展。ところが従来の金属缶では、水性化による内面の錆びを防止するためにコーティングなどを施す必要があり、包材コストの上昇要因になっている。こうした点が使用後の廃棄も容易な点と相まってB I Bには追い風となり、国内メーカー各社は順調に需要を伸ばしている。

また今年に入って、県から補助金として、新製品開発費一千万円のうち三分の二の補助が決定。新製品の詳細は非公開だが、同社では来年三月の完成を目指して開発を急ピッチで進めていく構えで、「N-パック」、緩衝材不要の新形態段ボールケース「N-ラップ」と共に同社の大きな柱として目指す

好調B I B 量産確立へ 県助成の開発も急ピッチ

ジャパンパック（富山県滑川市、TEL076-476-1750）は、環境問題などを追い風に、主力商品のバッグ・イン・ボックス（B I B）[N-パック]が好調な売れ行き。今秋からは機械化による量産確立も進め、さらなる需要拡大を目指している。

現在、B I Bの主要ユーザーである塗料業界では、環境問題などを背景に塗料の水性化が進展。ところが従来の金属缶では、水性化による内面の錆びを防止するためにコーティングなどを施す必要があり、包材コストの上昇要因になっている。こうした点が使用後の廃棄も容易な点と相まってB I Bには追い風となり、国内メーカー各社は順調に需要を伸ばしている。

なかでも同社の「N-パック」は、ボックスとフィルム内袋を特殊接着剤で部分接着しているため、組み立てが容易で、従来の一斗缶充填ラインにそのまま流すことができるなど機械適正にも優れていることから、発売以来、大きな注目を集めてきた。今秋には、機械化によって生産量を一気に五割程度高め、最近の需要急増に対応していく構えだ。

また今年に入って、県から補助金として、新製品開発費一千万円のうち三分の二の補助が決定。新製品の詳細は非公開だが、同社では来年三月の完成を目指して開発を急ピッチで進めていく構えで、「N-パック」、緩衝材不要の新形態段ボールケース「N-ラップ」と共に同社の大きな柱として目指す